

カメ子

「あけましておめでとうございます」編

作・小金井敏邦（横浜 劇団麦の会）

登場人物

カメ子

富士子

貴子

那須子

新聞屋さん

ピザ屋(恵比寿)さん

大家さん

舞台はカメ子の部屋。女子の部屋？かどうかはさておき、殺風景。

真ん中にこたつ。その後ろは開けっ放しの窓。風にひらひらと揺れるカーテン。

こたつの上に飲みかけのワインボトルとワイングラスが4つ。そして軽いつまみ。

グラスひとつには、ワインが注がれている。さっきまで誰かが居た気配。

ぴゅーうーうーつぴゅーうーうーつと、突然の風の音とともに、

カーテンがはためき、『ピンポン〜ピンポン〜』とチャイムで、客席暗くなる。

(チャイムのピンポンはクイズ正解の時にピンポンの音)

舞台だけの明かり〜ピンポン数回、だんだん間隔短く、ピンポンピンポン。

富士子(声)　　こんにちは〜。

富士子の声。

富士子（声） カメ子く・・・あれ？開いてる・・・。

ガチャ、バタン、とドアが開いて閉まる音。富士子登場。

富士子 ごめんなんしよ、あけおめ。

手には風呂敷つつみ、風呂敷の中は、おせち料理のお重、五段重ね。

富士子 カメ子、居ないの？

富士子、飲みかけのワイングラスを持ち上げ臭いをかぐ。

その時、チャイムが鳴る。ピンポンと一回

富士子 （自分の家のようにあつけらかんと）どうぞく。

貴子登場。

貴子 あけましておめでとう！・・・あれ、富士子。

富士子 おめでと、貴子。

貴子 カメ子は？

富士子 さあ？

貴子 さあつて、窓、開けっ放しで寒いじゃない。

富士子 あたしが入ってきた時から開いていた。

その時、ぴゅーっと、再び風が吹き、カーテンひらひら。

富士子&貴子 さぶる。

貴子 閉めよう。

富士子 だめ。

貴子 なんで。

富士子 お正月だから、

貴子 あけまして？

ぴゅーつと、再び風が吹き、カーテンひらひら。

富士子&貴子 閉めよう・・・。

二人で窓を閉めながら・・・

貴子 なんなの？これ、開けっ放しの窓と、消えたカメ子。

富士子 そして残されたワイン。

そう言いながら、ゴクリと飲み干す富士子。

貴子 飲むな。

富士子 美味い。

貴子 美味しい物には毒がある。

富士子 うっ・・・っっ、っっ（突然の腹痛か？）

貴子 え？マジ？

富士子 つっ・つまみが欲しい。

貴子 アホ！（どつく）

富士子 （こたつの上のつまみを口に放り込みながら）美味しい。

そっと登場している、那須子。

那須子 何してんの？

富士子&貴子 那須子！

那須子 あけましておめでと。

富士子 おめでと。

貴子 那須子、チャイムくらい鳴らしたら。

那須子 だけどドア、開けっぱなしだったよ。

富士子 開けっ放しは、貴子だな。

貴子 閉め忘れたか

那須子 カメ子は？

富士子 いない。

那須子 どこ行った？

富士子 それが謎・・・ちよつと整理すると。

貴子 最初に富士子が来た時いなかった。

富士子 次に貴子が来て。

貴子 (再現ドラマのように・・・) 窓開けっ放しで寒いじゃない。

富士子 お正月だから、

貴子 あけまして・・・で、開けっ放しの窓と、消えたカメ子。

富士子 そして残されたワイン。

貴子 飲むな。

富士子 美味い。

貴子 美味しい物には毒がある。

富士子 つまみが欲しい。

貴子 アホく、と私がどついたところに。

富士子 三番目の女、那須子登場。

那須子 三番目ってなに？

富士子 いち富士子、に貴子、さん那須子。

那須子 なるへそ。

富士子 (五七五調で) 初夢や、富士の高嶺で、那須色ワインってね、何故か縁起のいい

順に入ってきたわけよ。

那須子 玄関のカギはかかってなかった。

貴子 窓は開けっぱなし

富士子 そして、ナス色のワイン。(ワインの香りをかぐ)

貴子 飲むなよ。

富士子 (ワインを嗅ぎながら) 匂う。

那須子 (富士子に) あんた、屁こいた？

富士子 ごめん・・・って違う！

那須子 それじゃあ何？

富士子 事件のにおい。

那須子 あほくさ。

貴子 その辺に買い物でも行ったんじゃないの。

富士子 そうかな。

那須子 そうだよ、こたつ囲んで待ってりやそのうち、帰って来るって。

富士子 そうかなあ・・・(こたつに入りながら) そうだ、あたし、おせち料理持って来たヨ。

(切り替えが早い)

風呂敷を広げて、第一のお重を開ける。

富士子 ジャジャーン。

貴子&那須子 うわっ、すご！

貴子 これ、作ったの？

富士子 まさか、はなまるデパート。

那須子 奮発したね。

富士子 そりゃ、カメ子と正月、二重のお祝い。

貴子 二重と、お重？

タイミングよく、ピンポン！（と玄関のチャイム）

富士子 正解。

那須子 つまらん。

貴子 ちよつとチャイム。

那須子 え？

再び、ピンポン。

富士子 誰か来た。

貴子 カメ子かな。

那須子 一人暮らしの自分の部屋入るのにチャイムは、鳴らさないでしょ。

貴子 それもそだね。

富士子 那須子は他人の家（ひとんち）入るのにも鳴らさなかった。

那須子 それは、ドア開けっ放しだったもん・・

再び、ピンポンピンポン

富士子 どうぞ、開いてますよ。

那須子 どちらさんですか？

新聞屋 あのく新聞の集金なんです。

新聞屋さん登場

貴子 新聞屋さん？

那須子 正月早々、マジ？。

貴子 集金なんて年内に済ませるでしょ普通。

新聞屋 人手が無くて。

富士子 新聞奨学生とかいないの。

新聞屋 何言ってるんですか今どき、居るわけないでしょ

那須子 最近じゃ、新聞とる人も減ってるしね。

新聞屋 そうなんです、新聞購読者はどんどん減ってます。

富士子 あたしとってるよ。

那須子 テレビ欄と折込広告しか見ないでしょ。

富士子 よくわかってらっしゃる。

新聞屋 それでも、購読してくれてるだけでありがたい。

貴子 大変ですねぇ。

那須子 読んでもらうことよりも、売り上げだね。

新聞屋 はい。(富士子に向かって) だから新聞代お願いします。

富士子 へ？

新聞屋 立て替えてもらえませんか？

富士子 あたしが？

新聞屋 お知り合いですよね？

富士子 尻は合っても財布は別じや。

貴子 払ってあげたら。

富士子 おせち買って財布空っぽ。貴子よろしく。

貴子 那須子よろしく。

那須子 なんでやねん。新聞屋さん、カメラ子戻ってくるまで待つしかありません。

新聞屋 じゃあそうしますか。

富士子&貴子&那須子 (同時に) おくい。

那須子 ホントに待つのか？

富士子 ふつう、ではまた来ますって。

貴子 次のとこ集金に回った方がいいんじゃないですか。

新聞屋 いえ、お正月に集金なんてここだけです。

那須子 だから、お正月なんだし、セコセコ集金しないで、帰った方がいいんじゃない。

新聞屋 家では父ちゃんが飲んだくれてるだけですから。

富士子 それじゃ、一緒にこたつん入ってカメ子を待つか。

貴子&那須子 (同時に) 富士子

貴子 ここはあんたの家じゃないのよ。

富士子 まあまあ、これも何かの縁、てね。

新聞屋 ありがとうございます。

新聞屋さんは。急にくつろいで、こたつに入りながら

新聞屋 今日はお正月パーティかなにかで？

貴子 それもあるけど

富士子 それだけじゃないのよ、来月カメ子が結婚するの。

新聞屋 まあ、それはおめでとうございます。

貴子 それでね、親友4人で最後の日本のお正月を楽しもうって。

新聞屋 最後の日本で、結婚したらどちらへ？

富士子 それがね、聞いて驚くな。

新聞屋 はい。

富士子 ワイハッ。

新聞屋 ひゃっ。

富士子 驚き過ぎ。

新聞屋 お客さんがまた一人減る。

富士子&貴子&那須子 (同時に) そっちか！

新聞屋 いやぁ冗談です。おめでとうございます。

富士子 どうもどうも、なんとたつて国際結婚。

那須子 四人の中で、お嫁さん一番乗り、しかも、

富士子&貴子&那須子 ダーリンは外国人。

新聞屋 幸せいっぱいですね、で、皆さんは？

富士子&貴子&那須子 (同時に、顔を見合わせ) ハア。

新聞屋 すいません、余計なこと聞いちゃいました。

富士子&貴子&那須子 (同時に) 聞かれちゃいました。

新聞屋 まあ、お正月ということで、許して下さい。

富士子 だいじょぶ、だいじょぶ、明るくいこう。

そう言いながら、ワインを4人のグラスに注ぐ。

富士子 とりあえず乾杯ということで（切り替えが早い）はい、皆グラス持つて。

皆、グラスを手に持ち、宙に上げる

富士子 では、新年と、カメ子の結婚に！

（全員） かんぱい！

新聞屋 （こたつの上のお重を見て）おせちですね。

富士子 そうそう、はなまるデパート。見て見てお重。奮発したんだから。

そう言って、お重の一の重を上げる

富士子 ほら二の重、美味しそうですよ。（そう言いながら、お重を開けていく）

那須子 三の重。

貴子 四の重。

富士子 五の・・・？（五の重が空っぽ）

富士子 あれ？

貴子 空っぽじゃない。

那須子 あんた、食べた？

富士子 食べてない。

那須子 はなまるデパートクレームつけるか。

富士子 出た、クレマー那須子。

那須子 やかましい。

新聞屋 あのと、おせちの五の重は、わざと空っぽにしておくって知ってます？

富士子&貴子&那須子 (同時に) えく?

那須子 そうなの?

新聞屋 現在が満杯ではなく、将来さらに繁栄して富が増えますようにって、控えの重にしておくらしいです。又は、五段目は、神様から授かった福を詰める場所として空けておくとも聞きます。

貴子 へえく、初めて聞いた。

富士子 さすが新聞屋さん、物知り博士。

新聞屋 やだ恥ずかしい、ただの新聞販売店のおばさんですよ。

那須子 だけど、売り物のお重にそんな手の込んだことしないでしよう。

新聞屋 それもそうですね。やっぱりデパートの手違いですね。

富士子 いや、それじゃ夢がない。

貴子　　ゆめ？

富士子　　そう、カメ子の素晴らしき門出の年、幸せがまだまだ入って来ますようにって、このお重も、そう言うことにはしておきましょうよ。

那須子　　まあ、あんたが持って来たんだから、あんたの好きなように。

富士子　　よし、決まり！さて、このお重にはどんな幸せが入って来るのか。

貴子　　さあ、なんたって国際結婚だから。

那須子　　あたしたちにやあ、想像もつかない幸せよ。

富士子　　楽しみだね。

新聞屋　　ところで、カメ子さんどうしたんでしょうか。

貴子　　そうね、窓開けっ放しだし、その辺に行ったんならもう戻ってきてよさそうだよね。

那須子　　ちよっと遅すぎるね。

富士子 もしかして。

貴子 もしかして？（興味なさそうに）

富士子 結婚を一か月後に控え。

那須子 はいはい。（興味なさそうに）

貴子 マリッジブルーで窓から・・・（飛び降りる仕草）

貴子 まさか！

那須子 縁起でもない。あんた今、カメ子に幸せが入って来るように、お重の五番目は空っぽが良いって、言ったばかり。

富士子 いやいや、それはそれ、これはこれ、分けて考えましょう。

那須子 何を分けるんじや。

新聞屋 あの、窓の下に死体はありませんよ。

(全員)

・・・

富士子 下でなければ上、空に向かって飛び立った。

那須子 鳥じゃあるまいし。

富士子 なるへそ、鳥じゃなくてカメだもんね。

貴子 そう言うことじゃなくて。

富士子 でも、ダーリンは鶴だった。

那須子 つる？

富士子 名前は、ジョナサン・クレイン。

新聞屋 鶴は英語でクレイン。

那須子 ダジャレか。

富士子 (ひとり芝居) 「カメ子サン」

「なあに？ ジョナサン」

「アナタハ、カメサン、ボク、ツルチャン、千年、万年、アイシマス」

（後ろ向きで、ひとりで抱き合つて、チュウするジェスチャー）

那須子 アホクサ。

新聞屋 で、そのカメ子さんはどうしたんでしょうか。

富士子 おっと、そうそう、忘れてた。

貴子 忘れないでよ。

富士子 すぐ話が飛んじやいますね。

那須子 あんたが自分で脱線するんでしょ。

富士子 ハハハ・・・私ら、三人そろって、

富士子・貴子・那須子 脱線トリオ！（同時にポーズを決める）

貴子・那須子 一緒にすな！（同時に富士子にツツコミ）

新聞屋 で、そのカメ子さんはどうしたんでしょうか。

富士子 ひらめきました。

貴子・那須子 もういい！（同時にツツコミ）

富士子 もしかして。

貴子 もしかして？

富士子 かくれんぼしてたりしてね。

貴子・那須子 はあ？（同時に呆れるように）

富士子 だからさ、昔、寅さんの映画でさ、（貴子に）あんたさくら、（那須子に）あんた

おばちゃん、あたしおいちゃんね。

（おいちゃん）富士子「さくら、みつお、新学期が始まって学校はどうだい？」

(さくら) 貴子「今度のみつおの先生、若くてきれいなものよ」

(おばちゃん) 那須子「へええ」

(おいちゃん) 富士子「こんな時、寅の奴がいたら大変だあ」

(おばちゃん) 那須子「どうしてさ」

(おいちゃん) 富士子「またまた、叶わぬ恋ってやつよ」

富士子 そうすると、突然、寅さんが店の外をス〜って通り過ぎるわけよ。チラツと

店の中をのぞきながらね、それを、さくらが気付いて

(さくら) 貴子「あれ？今、お兄ちゃんが」

富士子 それがお約束でさ、分かっちゃいるけど、何回見ても笑っちゃうんだよね。

那須子 それ、かくれんぼと関係あるんか？

富士子 だからお約束で、このこたつの中からカメ子が現れたら面白いなあなんてさ、

お正月らしくて。

貴子 どこがお正月らしいの？

富士子 だから、こたつをパツとくあけまして・・・

こたつの布団をめくると本当にカメ子がいる。

(あれ?)と、こたつの布団を閉じる

富士子、貴子、那須子、ちよつと固まる

富士子 だから、こたつをパツとあけまして・・・

もう一度こたつをめくると、やっぱりカメ子がいる

カメ子 おめでとうございます。

富士子、貴子、那須子 カメ子く！(同時に)

貴子 なんでこんなところに居るの。

富士子 私の推理は天才的だ。

貴子 そういう問題じゃない。

富士子 新聞の集金から隠れていたのか？

カメ子 違うわよ。

那須子 まさかホントにかくれんぼ？

新聞屋 あのく、新聞代を・・・

カメ子 すいません、今、こまかいのが無いのでまた今度でいいでしょうか。

新聞屋 そんなこともあるかと、おつり銭タップリ持ってきました。

カメ子 あの、新聞屋さん、ちよつと考えてください。こまかいがないということとはく

大きいのも・・・無いんじゃないか・・・なく？

新聞屋 へ？

富士子 やっぱり集金から隠れてたのか。

カメ子 冗談、払います。いくらでしたっけ。

新聞屋 3,925円

支払うカメ子、領収書を渡す新聞屋さん。

新聞屋 ありがとうございます。ご結婚なさるんですってね。

カメ子 はい。

新聞屋 おめでとうございます。来月お引越しと聞きました。新聞は、今月末までの配達でよろしいでしょうか？

富士子 新聞屋さん、ご祝儀で、今月はタダにしてあげなさいよ。今集金したお金返してさ。

新聞屋 うーん・・・

カメ子 あの、ずつつづけてください。

(全員) はい？

貴子 今なんて言ったの？

カメ子 だから、これからも新聞の宅配続けてください。

那須子 何言うてまんねん、結婚式上げたらそのままホノルル行くんでしょ。

カメ子 実はさ、

貴子 なに？

カメ子 私ホントにマリッジブルス

那須子 マジ？

カメ子 マジ。

富士子 冗談でしょ

カメ子 これは冗談ではないから安心しなさい。

貴子 安心できない。

那須子 あんなにイケメンで優しくて年収もすごい。

富士子 代わりに私がお嫁さんになろうか。

カメ子 ダメ、あげない。

貴子 どうしたカメ子？

カメ子 あたし怖いの。

貴子 そりゃあ、異国の地だし誰だってそうよ。

那須子 あんたが選んだダーリンでしょ。

貴子 喧嘩でもした？

カメ子 ううん（首を横に振る）。いつも優しい。

富士子 うらやましいじゃん。

貴子 あちらいのご両親がいじめるとか？

富士子 ゴー、アウト、イエローモンキー！ リメンバーパールハーバー！

カメ子 そんなこと言わない。とてもやさしいハワイアン。

貴子 実は、彼、失業中を隠してた。

カメ子 ハワイアン航空のバリバリ幹部候補。

富士子 あんたむちやくちや幸せじゃないか。

那須子 バチ当たんで。何が不満なの。

貴子 「幸せが怖い」なんて言わないでよ。

富士子 コンニヤロメ。

那須子 この幸せの絶頂を楽しまなけりや、あとは落ちていくだけだぞ。

富士子 そう、この五の重のように、少し余裕を残しながら楽しむだな。

カメ子 だけど怖い。わけの分からない、言いようのない不安が私を襲うの

貴子 どうして、あなた英語だってペラペラじゃない。ハワイの生活だってノープロブレム

那須子 そうだよ、富士子見てみな、彼女の知ってる英語はひとつだけ。

富士子 ゴー、アウト、イエローモンキー！ リメンバーパールハーバー！

貴子 でも、こうしてたくましく生きている。

富士子 もうひとつ知ってるよ。

貴子 なに？

富士子 デイス、イズ、ア、ペン！

新聞屋 あの・・・

那須子・貴子 はい？（同時に）

新聞屋 飲んだくれの父ちゃんとヤンキーの息子を持つ母としてひとこと。

那須子・貴子　　はあ。(同時に)

新聞屋　恋は人を盲目にするが、結婚は視力を戻してくれる。

富士子　カメ子は盲(めくら)だったのか？

那須子・貴子　　違う。(同時に)

カメ子　新聞屋さん。

新聞屋　カメ子さんは、新しい生活を前にして、結婚に抱いていた憧れと現実との

ギャップに戸惑っているだけなんです。

カメ子　はい。

新聞屋　いけませんよ、尻ごみをしちや。結婚を目前で尻込みする人間は、戦場から逃亡する

兵士と同じ。

富士子　そうだ、戦え！カメ子。

新聞屋　　そうですね。あなたはこれから、大海原に向かって旅立つのだから。

富士子　　そう！太平洋を渡るのじゃ。

新聞屋　　しかし！結婚生活という、この激しい海原を乗り越えていく羅針盤は、まだ

発見されていない

貴子　　発見されてないの？

那須子　　だめじゃん。

新聞屋　　カメ子さん。それはあなたが自分で見つけなければ意味がないの。

富士子　　そう、カメは誰に教わることなく太平洋を渡る。

カメ子　　私はカメ子、太平洋を渡る。

那須子・貴子　　そう、頑張れカメ子！（同時に）

新聞屋　　そして月日は流れ、幸せな結婚生活はつかの間。釣った魚に餌を上げないつもりか

旦那は毎日飲んだくれ。女房を、お手伝いさんと勘違いしているのか、自分じゃ何もせず。毎日家の中でゴロゴロ、ゴロゴロ、昔はカツコよかった父ちゃんも今じゃ禿げて腹が出て。

カメ子 うそ！

新聞屋 可愛い可愛いと育てた子供は、親の顔みりや金をくれ。

カメ子 やだ！

新聞屋 いいえ、残念ながらそれが現実。

カメ子 止めて。 (泣きだす)

那須子・貴子 ちょっと！ (同時に)

貴子 新聞屋さん。

那須子 泣かせてどうする。

新聞屋 あらま、ごめんなさい。つい自分の本音をグチってしまった。

貴子 カメ子、新聞屋さんは悪い見本。

那須子 そうだよ、旦那にも当たり外れがあるってこと。

富士子 新聞屋さんの旦那さんは大外れ。

新聞屋 うちの父ちゃんの悪口言うな。

那須子 だって今、グチってた。

新聞屋 それはそれ、これはこれ、いくらダメ亭主でもやっぱり父ちゃん愛してる。

夫婦とはそういうもんなんです。

富士子 そういうもんかあ？

新聞屋 そういうもんです。それが20年連れ添った仲というもんです。だからカメ子さん

あなたもくじけちゃいけません。

那須子　なんか説得力無いなあ。

貴子　でも、そうよカメ子。冷静に考えて、あんな良い男つかまえて、何悩んでるんだか。

富士子　もしかして、名前が変わるのが嫌だとか。

貴子　カメコ・クレイン？

那須子　鶴と亀でめでたいじゃないか。

カメ子　名前なんか気にしない。

貴子　じゃあ何？

那須子　ハッキリしなさい。

富士子　そんなんだったら、ホントに私がもらっちゃうぞ。

カメ子　大丈夫、彼は今、日本に居ない。

富士子　そうなんだ、それじゃ、いつ日本に戻るの？あたしにも予定があるから。

貴子 予定って、あんた本当にカメ子のダーリン奪うつもりか。

富士子 冗談です。

カメ子 今度、彼が日本に来るのは結婚式の前日。

那須子 そりやあギリギリ。

新聞屋 前日まで独りぼっち。それが不安の原因ね。

カメ子 自分でもよくわからない。

新聞屋 私にはわかります。きっとそう。結婚式前に旦那さんに会えない。そりやあ

不安だわよ。

富士子 だけど去年のクリスマス休暇から年明けまで、朝から晩まで二人でブラブラ・

貴子 ラブラブね

那須子 だったら、ひと月くらい耐えなさい。

富士子 そう、耐えなさい。

カメ子 でも、正月明けの成田空港、彼を乗せた飛行機が雲に消えていくのを見ていたら・・・

新聞屋 なんだか心が締め付けられるようになったのね。

カメ子 はい。

那須子 新聞屋さん、なんでそんなに、カメ子の気持ち分かるの？

新聞屋 そりゃあ、経験者ですから。

富士子 新聞屋さんのダーリンも外国人。

新聞屋 まさか、純国産のグクタラ亭主。実は私、大島の出身なんです。

那須子 大島も、島に変わりはないけれど。

新聞屋 あれは私が十六の春・・・

(なんだかムードは、アンコ椿は恋の花)

新聞屋 島には椿が咲き乱れ、緋（かすり）の着物に前掛け姿、椿小町と言われた私。

そんな時代もありました。風にひらひら緋の裾が、舞えば恥ずかし十六の、
長い黒髪ぶつ切り切つて、帰るカモメに託したや、別れのテープを握りしめ、
彼の乗った連絡船、波のかなたに消えてゆく。

貴子 新聞屋さん素敵！

那須子 そんなロマンチックな過去があつたとは。

新聞屋さん、歌い出す・・・アンコ椿は恋の花

新聞屋 ♪三原山から吹き出すけむり、北へなびけば思い出す。惚れちゃならない都の人に、

♪寄せる思いが火と燃えて、アンコ椿は、アンコ、椿は、アアン、ア、アン、アンく

♪すすりく泣き・・・

富士子 その彼が、今のグータラ亭主か？

新聞屋　いいえ違います。

那須子　違うんかい！

新聞屋　今の父ちゃん、上京してから知り合った、居酒屋の店員。

富士子　なんだそりゃ。

新聞屋　でもね、辛い別れの気持ちは分かります。

カメ子　新聞屋さん。

新聞屋　カメ子さん、会えない時間が愛を育てるものよ。

貴子　新聞屋さん良いこと言うじゃない。

那須子　さすが年の功。

富士子　年の功より亀の甲

貴子　それ逆、亀の甲より年の功。

富士子 いいじゃんどっちでも。カメだって、産卵のために太平洋を渡り、色々な苦勞を経験しているのよ。

新聞屋 そうです、カメ子さん。あなたは太平洋を股にかけるのです。

カメ子 新聞屋さん、あなたはさつき大海原に向かって旅立てと言ってくれました。今度は・

新聞屋 股にかけるのです、カメ子さん。旅立っただけじゃダメ、股にかけるのです。

富士子 旅立っただけなら戻るかどうか分からない。股にかけるなら、行ったり来たりするわけか。

新聞屋 そうです、ウミガメは太平洋2万キロを股にかけ、日本で産卵するのです。

那須子 カメ子もそうなのか？

新聞屋 出産のときは実家に帰って来るでしょう。

那須子 なるへそ。

新聞屋 だからカメラ子さん。

カメラ子 新聞屋さん。

新聞屋 目をつむってごらんなさい。

カメラ子 目を？

新聞屋 そう、カメラ子さん、目をつむって。

カメラ子 はい。（目をつむる）

波の音

新聞屋 想像してごらんなさい。あなたの目の前には大海原が広がっているでしょう。

カメラ子 はい。真っ青な海が広がっています。

ザザンとひときわ大きな波の音

富士子 （富士子も目をつむっている）おお！ホントに波の音が聞こえる。

那須子 あんたも一緒に目をつむってどうするの。

富士子 あたしも太平洋を股にかけようかと。

貴子 股にかけてどうするの。

富士子 密かにダーリンを奪おうかと。

那須子 まだ言うか。

貴子と那須子はいつのまにか、大きな青い布を

みんなの背後で、ひらひらとさせ、海の雰囲気を作る。

新聞屋 カメ子さんどうですか？

カメ子 すごい！デープブルーの海の中、差し込む光が神秘的に揺れて、私を

包み込んでくれる。

富士子 カメ子見て、向こうにマッコウクジラの親子が！（富士子はまだカメになって

泳いでいた)

カメ子 ホントだ！クウウ、クウウって鳴いている。なんだか楽しそうに泳いでる。

富士子 カメ子、あんたもずいぶん楽しそうじゃない。

カメ子 海の中ってすごい。頭のとっぺんから、手の先足の先まで神経が研ぎ澄まされてる。

富士子 ひれをグイッとかくと。

カメ子 スイツと進む。

新聞屋 カメ子さん、あなたはあなた自身の力で、あなたの意思で進んでいるのよ。

カメ子 私がひれをグイッとかくと。

富士子 スイツと進む。そして身体をじっとしていると。

カメ子 光と海水が私を包み、ゆらゆら漂う自分を感じる。

新聞屋 そうよカメ子さん。その感覚があなた、あなた自身なのよ。

カメ子　これが私。

新聞屋　あなたは、あなた自身で泳いでいる。

カメ子　私は、私自身で漂っている。

新聞屋　だけどねカメ子さん、その自分を感じるのは海があるから。

カメ子　ひれで海水をグイッと押すと。

富士子　海水が私を押し出してくれる。そして身体をじっとしていると。

カメ子　私を優しく包み込む海を感じる。

新聞屋　わかったでしょう。あまたは大きな愛に包まれているの。

カメ子　私は愛に包まれて生きているのね。

富士子　カメ子、あなたはひとりじゃない。

新聞屋　そうよ、あなたは何も恐れることはない。

カメ子　なんだか、うじうじしていた自分が恥ずかしい。

富士子　カメ子は今までの自分の殻をやぶり、一人たくましく大海原を泳いでいくのであった。

突然、嵐の波音

新聞屋　しかし、海はいつも穏やかだとは限らない。時に激しく荒れ狂う。

激しい嵐の音

カメ子　きやあ！

富士子　激しい波に、もがき苦しむカメ子。

カメ子　ああ！泳いでも泳いでも、進まない。

富士子　いくら泳いでも、波に、潮の流れに流されていくカメ子。

新聞屋　そう、カメ子さんは今、自然の恐ろしさ、世間の厳しさを身体全体で

受け止めているのよ

富士子 頑張れカメ子！

貴子 そうよ、頑張つてカメ子！

那須子 負けるなカメ子！

新聞屋 朦朧（もうろう）とした意識のあなたから、みんなの励ましの声が聞こえた。

カメ子 みんな、私は大丈夫、負けないわ！

富士子 嵐の中を、必死で泳ぎ続けるカメ子。

新聞屋 その頑張りが天に通じたか、次第に風はおさまり、波も静かになっていった。

富士子 海面に顔を出すと、雲の切れ間から輝く太陽の光が差し込んでくる。

新聞屋 カメ子さん、ほら、向こうからあなたのダーリンが迎えに来たわよ。

カメ子 え？どこ？

貴子&那須子 （同時に）富士子！

富士子 へ？（あたし？というポーズ）

貴子&富士子 （同時に） そう！

富士子 カメ子サ〜ン！ボク、デ〜ス、ジヨナサン・クレイン、鶴チャンデ〜ス。

カメ子 ダーリン！

富士子 カメ子サン、千年、万年、アイシテマ〜ス！

カメ子 鶴チャン、会いたかった。あなたが成田空港から空に飛び立ち

雲に消えたその瞬間、私は言いようのない不安に襲われました。

でもそれは、何もしない自分を棚に上げ、全てをまわりの人にしてもらい、

不満ばかりつぶやいている、甘えん坊の自分がそこに居るからだど気づいたの。

富士子 カメ子サ〜ン、仕事デ、ギリギリマデ、モドレナクテ、ゴメンナサ〜イイ。

カメ子 ううん、大丈夫。だって、あなたの愛が、この海の青さのように深いと、

今は感じる事が出来るもの。

ひとときわ高くなる波の音。あるいは音楽。余韻を残すように音が小さくなると

突然、大きな音で「ピンポン」とチャイムの音

富士子 ……どなたですか？

ピザ屋（恵比寿） ピザラーです。

貴子 カメ子ピザとった？

カメ子 いいえ、頼んでないよ。

那須子 じゃあ、誰？（3人は一斉に富士子を観る）

富士子 なんで？

貴子 あんたが一番怪しい。

富士子 違うって！そうだ、この五の重が呼び込んだとか？（五の重を手に取り）

『(腹話術のように) 僕だけカラッポなんてヤダヨ、何か入れてくれヨ』

実はピザが大好きなんだヨ』

新聞屋 実私です。

(皆) へっ?!

新聞屋 おせちだけじゃ物足りないかと思ひまして。

(皆) 新聞屋さん!

富士子 気がきくじゃん。

貴子&那須子&カメ子 (同時に) 違う。

富士子 新聞屋さんいつの間にか?

新聞屋 さつき乾杯した時、こっそりと。

富士子 気がつかなかったなあ、新聞屋、おぬしもワルよのお

新聞屋　へっへっへ、この越後屋を甘く見ねえで下さいまし。

貴子　　違う！

那須子　誰が払うの。

新聞屋　すいません、私が払います。さつき集金した新聞代で。おいくらですか？

ピザ屋(恵比寿)　3,925円

新聞屋　あらま、ぴったり。

富士子　新聞代と同じ！これは、もう一度乾杯しないと！

那須子　なんでやねん。

富士子　ピザに乾杯！ピザ屋さん、ピザ屋さんも一緒にどう？

貴子　　また、富士子く、ピザ屋さん困ってるじゃない。

カメ子　まあいいじゃない、これも何かの縁ってね。

富士子 それ、あたしのセリフ。

新聞屋 まあまあ、カメ子さんも元気になったってことですな。

貴子 カメ子、もう大丈夫？

カメ子 大丈夫バイ！

富士子 マリッジブルーは？

カメ子 太平洋のデーパーブルーに消えていったわ！

全員、こたつに入り、ワイングラスを手に取る。

富士子 では、新年と、カメ子の太平洋を股にかけた結婚に……

乾杯と言う間に、再び「ピンポン」というチャイムの音。皆、コケル。

那須子 今度は、だあれ？

富士子 あたしじゃないからね。

皆、新聞屋さんを見る。

新聞屋 あたしじゃありませんよ。あたしはピザだけです。

貴子 待って、今度も出前だとは限らないでしょ。

再び「ピンポン」皆、玄関の方を注目

カメ子だけ、富士子の耳元で、自分の鼻をつまんで声色を変え

カメ子 『スシローです。お寿司お持ちしました』

富士子 やっぱり出前だ。

那須子 なわけないでしょ。

貴子 カメ子

カメ子 失礼しやした。

富士子 なんだ、違うのか

那須子 あかね。

玄関の方から声がする。大家さんである。

大家 布袋はん、大家どすやけど。

カメ子 あら、大家さん。

大家 布袋はん、あけましておめでとうさん。

カメ子 あけましておめでとうございます。

大家 皆さんもおそろいで、あけましておめでとうさん。

(皆) あけましておめでとうございます。

恵比寿 大家さん、あけましておめでとうございます。

大家 あら、恵比寿はんもご一緒どすか。

カメ子 大家さん、ピザ屋さんと知り合いなんですか。

大家　うちの、もうひとつ別とこのアパートに住んでもろうとるんです。

富士子　なんか、良いね。みんなどこかでつながっている。

大家　そうそう、大勢いはって良かったわ、お寿司、持って来たんです。

富士子　やった！

カメ子　実はちようどお寿司が食べたかったんです。

富士子　カメ子がね。

貴子　大家さんて、京都の方なんですか。

大家　へえ、京都の八幡福祿谷（やわたふくろだに）ちゆうとこどすねん。ちようど、

里に帰ってまして、ちよいお土産もあるんですえ。

カメ子　そうでつか、こりや、えらいすんまへん。

貴子　カメ子急にテンション高い。

那須子 なんとって、太平洋を股にかけちゃったからな。

富士子 じゃあさ、お寿司も手に入ったことだし、今度こそ乾杯ね。

カメ子 大家さんもうですか、ご一緒に。今、皆で乾杯しようとしてたところなんです。

大家 そうですか、お正月どすから、ほなあ遠慮なく、あがらせてもらいきまんねん。

カメ子 どうぞ。

大家 布袋はん、来月いよいよ結婚どすなあ、ほんまにおめでとうさん。

カメ子 ありがとうございます。

富士子 さあ、かんぱい、乾杯。

新聞屋 しかし、いっぱい集まりましたね。

富士子 これも何かの縁って。そうだ、おめでたついでに、今日のお客様にも一緒に

乾杯してもらいましょうよ。

そうすると、客席のお客さんにも、紙コップに入った

ワイン、又はジュースが配られる・・・

新聞屋　ところで、カメ子さんの苗字は布袋さんというのですか。

カメ子　はい。

新聞屋　なんだか縁起がいいですね。

貴子　どういうこと？

新聞屋　ピザ屋さんは恵比寿さん。

ピザ屋　はい。

新聞屋　私の名前は黒っていうんです。大黒花子。

貴子　大黒さんに、恵比寿さんに、布袋さん。

那須子　へえ、じゃああと、弁財天（べんざいてん）、毘沙門天（びしゃもんでん）、

福祿寿（ふくろくじゅ）、寿老人（じゅろうじん）で七福神。

富士子 あのみ。

貴子 なあに富士子。

富士子 あたしの出身は、埼玉県朝霞の東弁財（ひがしべんざい）なんだよね。

新聞屋 弁財天！

貴子 そうなの？それなら私は・・・

富士子 来たヨ、貴子さん、あなたの生まれは何処ですか？

貴子 私の生まれは神奈川県三浦市の、南下裏町毘沙門（みなみしたうらまちびしゃもん）、

毘沙門湾の小さな漁港。

新聞屋 毘沙門天！

大家 うちが京都の、八幡福祿谷（やわたふくろだに）、福祿寿の福祿に谷と書いて、ふく

ろくだに、ちゅうとこどすねん。

新聞屋 福祿寿！

那須子 寿老人がいない。

貴子 ねえ、寿老人ってどんな字だっけ？

那須子 お寿司のす・ことぶきと言う字に老人。

貴子 海老って、海に老人の老って書くんだよね

那須子 そうだよ。

貴子 (大家さんの持って来た寿司を持って) あたしお寿司は海老が好き。そして

このお寿司、海老が入ってる。

新聞屋 寿老人！

那須子 そろった、七福神！

新聞屋 こいつあ春から、縁起が良いわえなあ。

那須子 カメ子、きつと、皆があんたを、祝福してくれてる。

カメ子 ありがとう。もしかして本当に、富士子の持って来た空っぽの五の重に引き寄せられたのかしら。

新聞屋 そうかもしれないわね。この世は不思議な事がいっぱい。

カメ子 だから楽しい。

客席の皆さんに乾杯の葡萄酒がいきわたったか確認・・・

富士子 さて、皆様、グラスにとって・・・紙コップですけれども、いきわたりましたでしょうか？

皆にいきわたるまで、アドリブで・・・

新聞屋 どうやら、皆さん、準備よろしいようですよ。

カメ子 では皆様、よろしければご一緒に・・・

富士子 新年と、カメ子の太平洋を股に掛けた結婚と、そして、

貴子 本日のお客様のご健康と、

那須子 ご多幸をお祈りしまして、

(全員) 乾杯！

客出しの音楽・・・

(全員) 本日は、どうも有難うございました。(以下、後説、適当に・・・)

(終わり)